



Title	apenasとsinが共起する構文の諸相
Author(s)	出口, 厚実
Citation	Estudios Hispánicos. 2005, 29, p. 1-21
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/93867
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

apenas と sin が共起する構文の諸相

出 口 厚 実

0.

非強勢の小辞 sin はスペイン語前置詞の一つで、明確な否定意味を内蔵しているのが特徴である。一方、主に副詞として働く apenas は、“否定”に近接する意味場においていくつかの興味深い性質を持つことを拙論(1998, 1999, 2001a, 2001b, 2003)で見えてきた。sin と apenas 両者の共起についても出口(1999:8)で軽く触れた。この稿は両者が共存する環境をさらに詳しく探り、その諸相を調査することによりこの前置詞を伴う句構造が apenas に対して示す多様な意味の融解・相反・離合を明らかにするのが目的である^{注1}。

0.1. sin に含まれる否定

前置詞 sin は伝統的に“欠如または欠乏を表す (denota privación o carencia)”と規定されてきた(RAE1973:443, De Bruyne 1999:690)が、Bosque(1980)のような例外を除けば、それが発揮する「否定機能」の側面から詳しく検討されることはなかったようである。sin が単独で実効的に^{注2}否定の意味を含む点は動詞不定詞を支配する次のような構文(1b.c.)によるパラフレーズで定形動詞が明示的に否定されなければならないことで確認できる。

- (1) a. Entró sin saludarme. 「彼は私に挨拶しないで入ってきた」
b. No me saludó al entrar.

注1 地域、ジャンルや媒体を限定せず一般的な現代スペイン語とみなされる用例を広く収集し、その中から特に、apenas と sin が共起する文型を考察した。該当した総文例は約4,150で、最近10年間の新聞・雑誌に見出されたものが大半を占める。各例文の出典は文末尾(訳文が後続するときはその後)の[]内の略号で表記し、<例文出典>と<電子データ>の項にその明細を記した。タイトル略号の後に:と数字が示される場合は、ページ付けされた出版物、電子テキストではその所在ページを、逐次刊行物には dd/mm/yy の形式で発刊日付を表す。

注2 他の否定誘発子の効力下で単に否定に協調(協働)するのではなく、常に実質的な統語上の否定と見なされる場合を指す。

c. Entró y/pero no me saludó al hacerlo.

条件的（あるいは仮想的な原因）解釈を受けると言われる、文（2a）の sin についても同様である。

（2） a. No se puede vivir sin comer. 「食べなければ生きられない」

b. No se puede vivir si no se come.

（3） a. Me las arreglaré sin ti. 「君がいなくても何とかしよう」

b. Me las arreglaré aunque no esté contigo.

上文で sin comer に「食べなければ」、sin ti には「君がいなくても」など、条件・譲歩の別個の語義が含まれると言うよりも、状況補語として no comiendo、no estando contigo が果たすの同じような単一意味機能を持つと考える。前置詞 sin が名詞句補語を従えるときも、tener, haber, etc. 所有、存在、獲得などの動詞を補えば、否定文を介在させて等価な表現に変えることができる。

（4） a. Lo haré sin ayuda de nadie. 「誰の助けも借りずにそれをするだろう」

b. No tendré/recibiré ayuda de nadie al hacerlo.

この種の構造が、上位の名詞句に包摂される場合、すなわち、名詞 + sin + 名詞 の外観を呈しているときは「名詞 + que no tiene, en el que no haya, donde no haya, etc.」に言い換えが可能だろう。

2.2. sin の統語型

sin を含む句構造において、sin はその中心語で、後方に付加部を構成する諸要素が続く。付加部あるいは前置詞の補語ないしは被制辞とも称される部分に従属節が占める場合を「従節核 sin」と呼ぶ。それ以外の場合は動詞を核とする不定詞句が占めるか、そこに名詞句が来るかでさらに分類することができる。ここでは前者を「不定詞核 sin」、後者を「名詞核 sin」と略称することにする。

他方で、apenas 側からの分類として、sin 前置詞句の外部にあるが、sin 句を状況補語とする同一単文の動詞句内で作用する apenas を「主動詞 apenas」と名付け、apenas が sin を含む前置詞句内部にあるものを「局所 apenas」と区別する。副詞 apenas の相対的位置で言えば、前者の場合 sin 句から離れて先行することが多いが、sin の直前もあり得る。また、「局所 apenas」ではこの副詞が sin の前後に立ち得るし、やや離れた後位を占め

る可能性もある。しかし「主動詞 *apenas*」が *sin* 句の後方内部に入り込むことはない。

I. APENAS - SIN

第1章では同一文中で *apenas* と *sin* が共起し、この順に現れる場合を扱う。意味の観点からは *apenas* が弱い否定作用を及ぼす場合〔→近似否定 Cf.出口(2003)〕とそうでない(=肯定的解釈を受ける)場合〔→下限評価または直後時間〕に大別できる。前者のケースはさらに、*apenas* が *sin* 句を(弱)否定の傘下に収めるか否かで細分される。

1. 主動詞 *apenas*

1.1. 不定詞核 *sin*

§ 1.1.1. ~ § 1.1.3. で近似否定タイプの *apenas* が *sin* + 不定詞構造を支配するケースを取り上げ、後半の § 1.1.4. ~ § 1.1.6. では *apenas* による擬似的な否定と *sin* 固有の否定が互いに独立する事例や、下限評価の解釈を得る *apenas* 環境に *sin* 句が生起する場合を見る。

1.1.1. *apenas* + ~ 否定語

例文(5)では *apenas* + ~ 否定語の示す否定機能が *sin* に固有の否定を自らの傘下に収めていて、二重の否定が効いている。

- (5) *Allí apenas se fian ya de nadie sin identificar.* 「そこでは身分証の確認をしないで人を信用することはほとんどなくなった」
[PA:12/02/00]

ここで「二重否定」というのは“*sin* (否定) を否定する”、あるいは、RAE (1973:356) で *no* が *sin* の否定を消滅させる (*destruye la negación*) と述べているような場合を指す。このケースでは、もちろん *apenas* は「*sin* + 不定詞」の動詞意味の中にある否定を緩和して、“ほぼ否定する”機能ではない。主動詞の準否定価値を保っていて、「B せずに A することはほとんどない」=「A するほとんどの場合 B する」の意味である。

- (6) *El resultado, tras la emisión del lunes es, sin embargo, que apenas ha quedado nadie en Occidente sin contagiarse de lo ocurrido, y miles de millones de seres humanos viven implicados o repetidamente importunados por el hecho banal de que Bill Clinton intercambiara tocamientos impuros con una muchacha, lo que ante el asombro de todos -enemigos incluidos-,*

puede acarrearle la destitución. 「事件に影響されなかった人は西欧にはほとんどだれもいなかった」 [PA: 24/09/98]

1.1.2. *apenas* + ～否定対極表現

文(7)(8)においては主動詞句の *apenas* に加えて *un día*, *un mes* 等の否定対極表現が随行するので、文の否定性は明瞭である。

(7) En mi juventud estaba locamente enamorado de mi lengua materna, y *apenas* pasaba un día *sin* recitar o leer los grandes poemas húngaros. 「ハンガリーの名詩を朗読したり読まない日は1日とてないくらいだった」 [VG:21/12/01]

(8) ‘Siempre he tenido un cambio seco, muy brusco, y más este año, que me he entrenado en velocidad’, declaró después, modesto y orgulloso a la vez, García, que había ganado el 5.000, que había completado la concienzuda faena del fondo español, el masculino y el femenino, que no dejó *apenas* ni un rincón *sin* barrer desde el 800 femenino hasta el maratón. 「女子800m からマラソンまで一隅すら圧勝せずに残さなかった」 → 「ほとんど隅々まで圧勝した (=総なめした)」 [PA:12/08/02]

1.1.3. *apenas* 単独 (否定語なし)

否定語・否定対極表現を伴わないで、*sin* 前置詞句の否定を覆すことで *apenas* の動詞句意味が実現されることが意図される場合もある。可能・達成意味の動詞に関わる下記のような *apenas* 文では <B せずに、かろうじて A できる> ことを意味するのではなく、<B することで、かろうじて A することができる> を暗示する。

(9) Según sus colegas de la BBC, que ayer *apenas* podían hablar *sin* emocionarse, era tan natural como sincera, y el público lo notaba. 「感動せずに話すことはほとんど不可能だった」 [PA: 27/04/99]

(10) La denunciante *apenas* consigue articular sus recuerdos *sin* verse sobrecogida por un llanto irrefrenable. 「告発者は抑えがたい号泣にとられずにほとんど記憶を語れない」 [MD:24/09/00]

(11) Preciosa, según le contó ayer a Juan, vivía en un pueblo cuyas casas parecen desplomarse desde la montaña a la que se agarran con firmeza, pues la inclinación es tal que *apenas* es posible caminar erguido *sin* correr el riesgo de caer rodando. 「転げる落ちる危険を冒すことなしに歩くことはほぼ不可能である」 [TV]

1.1.4. 臨界肯定 A + 否定 B

前項と同じく、達成の動詞が絡むが、*apenas* の意味が臨界到達を強調して肯定的に解釈される【拙稿1998:34-5】とき、異なった文意を生じる。すなわち「B せずに、かろうじて A する（出来る）」または「B せずに A するだけだ」の読みであって、不定詞句動詞の意味に対して《否定 + 否定→肯定》の含意は生じない。

- (12) -¡Cuidado con lo que dices por esa boca! - *apenas* consigue decir su madre, furiosa pero *sin* poder evitar una media sonrisa. 「半笑いを避けられずかろうじて～とすることができた」[LC]

1.1.5. 近似否定 A + 圏外否定 B

apenas を含む動詞句は近似否定的であるが、*sin* 不定詞句をスコープに入れずに、*sin* が独立して否定価を保つケースも少なくない。

- (13) Los londinenses, acostumbrados a los cambios bruscos del clima, *apenas* abren los paraguas, *sin* apurar el paso. [NA: 18/04/00]

この最後の文(13)は「ロンドン人は天候の急変に慣れているので、ほとんど傘をささず、歩を急ぐこともない」と解釈され、「急ぐ場合はほとんど傘を開く」の意味ではない。

- (14) Después le hizo varias preguntas, él *apenas* contestaba, *sin* levantar la vista del libro. 「彼は本から目を反らさずほとんど答えなかった」[RR]
- (15) Al volver a casa *apenas* quería hablar del tema, estaba desganado, *sin* querer salir a la calle y hablar con sus compañeros, etcétera. 「外に出たくもなく、その話題についてはほとんど話したくなかった」[MA: 30/03/02]
- (16) Marques, que había sido una pesadilla para la defensa visitante durante toda la etapa, fue implacable para anticiparse a un cruce de Bermúdez y sacar el derechazo que Córdoba *apenas* pudo tocar, *sin* evitar el gol. 「ほとんど触れることが出来ずゴールを妨げることができなかった」[NA: 02/11/00]

文(16)に類するこの種の構文では NEG poder tocar y NEG evitar の《y NEG》が語彙的に *sin* と実現するとみなせば、分かりやすい。「ゴールを阻止せずには触れられなかった」の意味（＝ゴールを阻止したが触った）ではない。2 連否定が、結果として 2 連肯定を含意する *apenas* pudo を含んだ下の文と対照される：

- (17) Cuando Iván Helguera abandonó el campo, en el minuto 67, *apenas* pudo llegar hasta el banquillo *sin* trastabillar. 「よろめかずにベンチまでたどり着くとはできなかった」 (=よろめきながらたどり着いた)
[MD: 01/04/01]

1.1.6. 下限評価の *apenas*

下限評価的な用法の下記文では、いずれも「～せず、ただ～するだけだ」と解釈される。

- (18) Así, la empresa se limitó *apenas* a emitir un comunicado para reconocer el hecho, *sin* dar el nombre del perjudicado, y a dejar en manos de las cancillerías y de las fuerzas armadas de ambos países una posible solución. 「被害者の名を挙げずにただ事実を認める声明を発表しただけだった」 [NA: 13/10/00]
- (19) Poco antes de llegar al puesto de control fronterizo, un empleado del barco recogió no menos de trescientos pasaportes, que *apenas* fueron mirados por encima, de prisa y *sin* sellarlos. 「スタンプを押さず、上から急いで見ただけだった」 [LT:124]
- (20) Distráido, porque lo menos interesante de su trabajo era el circo ineludible de la farándula, Aravena *apenas* nos saludó *sin* darnos la cara, la vista en la ventana donde se perfilaban los techos vecinos y los nubarrones de la próxima tormenta.[EL:236]
- (21) La vida. ¿Quién sabe lo que es? Las religiones no, puesto que la consideran como un paso para otras regiones; la ciencia no, porque *apenas* investiga las leyes que la rigen *sin* descubrir su causa ni su objeto. 「原因も目的も解明せずに人生を支配する法則を調べるだけだ」 [DS]

1.2. 従節核 *sin*

不定詞核が後続する構文と同じように、従属節 *sin que* が *apenas* の弱否定性の圏内にあるもの §1.2.1. と、そうでないもの §1.2.2. に区分できる。節内の動詞はいずれにせよ接続法形となる。

1.2.1. 近似否定 A + 否定 B

- (22) *Apenas* transcurre una semana *sin* que los planes de algún director ejecutivo sean frustrados por bien organizados grupos de presión, que protestan contra los alimentos genéticamente modificados, los experimentos

con los animales o la globalización.[UN: 11/03/00]

文(22)では「～せずに一週間も持つことはない、1週間もしない内に～する」の意味で *apenas* は主節を否定的に捉え、従って全文が2重否定の解釈を受ける。

(23) Sin embargo, desde el final de la guerra *apenas* ha pasado un solo día *sin* que los rebeldes hayan lanzado un ataque de guerrilla. 「反乱軍がゲリラ攻撃を仕掛けずにただの1日も過ぎたことはほとんどない」
[AB: 23/06/03]

(24) ¿Seremos nosotros el verso fallido de su gran poema, o antes bien la rima más perfecta que jamás concibiera? *Apenas* pasa un día *sin* que me lo pregunte. 「それを自問しないで過ごす日はほとんど1日もない」
[ND: 24/09/00]

1.2.2. 近似否定 A + 圏外否定 B

否定語や限量表現のない単独の主動詞 *apenas* では次文のように、主節の近似否定とその支配圏外に止まる否定の連続となるの一般である。

(25) El cruzazulino *apenas* alcanzó a tocar el balón, *sin* que modificara el rumbo del mismo. 「“青十字”はほとんどボールに触れられず、球の方向を変えることはできなかった」 [UM: 05/10/03]

1.3. 名詞核 *sin*

1.3.1. 近似否定

apenas が *nada* などの否定語と組み合わせて用いられったり、否定対極性に準じる *un*, *una* + 名詞の表現を伴うとき、「ほとんど～ない」の否定ニュアンスが強い。従って《X (名詞) なしにYすることはほとんどない→YすればほとんどXがある》を推測させる。

(26) Inquietante advertencia si se tiene en cuenta que los militares iraquíes en paro tienen una colección de armas en casa y que *apenas* pasa un día *sin* nuevo atentado contra las fuerzas de ocupación. 「占領軍に対する新たなテロのない日はほとんど1日もない」 [AB: 23/06/03]

(27) Tengan o no razón, un sector enorme permanece estancado: las telecomunicaciones. *Apenas* pasa un día *sin* más noticias malas. 「悪いニュースのない日はほとんど1日もない」 [MD: 03/03/01]

(28) Hasta un tipo que pasa por ser tan ácrata y alérgico al método como

Djalminha admite que un futbolista *apenas* es nada *sin* un equipo alrededor. 「サッカー選手は周りのチームがなければほとんど無価値だ」
[PA: 19/03/00]

1.3.2. 肯定的な *apenas*

状況補語を導く *sin* 句を伴うが、主動詞に関わる *apenas* は臨界通過を意味して肯定的に解される。＜二重否定→肯定＞の解釈は成立しない。

- (29) La selección de España *apenas* igualó *sin* goles en su visita a Irlanda del Norte y cedió el liderazgo de su grupo, en una jornada de eliminatorias para la Eurocopa 2004 que se saldó con el triunfo de tres “grandes”: Italia, Alemania e Inglaterra. 「無得点でかろうじて引き分けた」 [UM: 12/06/03]

1.3.3. *apenas* + 名詞句内部の *sin*

主節動詞を近似否定する *apenas* の効力が、その動詞構成素の名詞句内部にある *sin* 句まで及んでいて、「～をもたないNはほとんど…ない」から「ほとんどがNをもつ…だ」を含意している。

- (30) En mi pueblo en Marruecos, Ifrane, me hubiera sido imposible jugar a fútbol. Está en el Atlas, y *apenas* hay una calle *sin* desnivel, todo son subidas y bajadas. 「段差のない街路はほとんど1つもない、みな上りか下り坂だ」 [PE: 03/05/99]
- (31) Lo único cierto es que *apenas* quedarán zonas de Madrid vírgenes, *sin* urbanizar. 「未開発の処女地はほとんど残っていないだろう」 [MN: 18/12/96]
- (32) *Apenas* se ven mujeres *sin* burka por la calle, pero ya no existe una policía religiosa dispuesta a azotar a toda aquella mujer que no cumpliera sus salvajes reglas. 「街でブルカをまとはない女性はほとんど見かけない」 [PA: 14/11/01]

2. 局所 *apenas*

副詞 *apenas* が *sin* 前置詞句に属する場合を「局所 *apenas*」と呼び、主動詞 *apenas* 構造と区別する。このタイプで *apenas* が *sin* に先行するときは、*apenas* が *sin* 前置詞句の直前に立つのが原則である。

2.1. 状況補語 sin 句

主動詞に対して状況補語の関係を保つ sin 句の直前に付加された *apenas* は sin と融解し、あたかも「ほとんど～なしに」という1個の前置詞であるかのように働く。つまり、この副詞自体がもつ否定的側面は失われ、sin の内部の「否定」が「近似的否定」に入れ替わる。あるいは、“*apenas* は否定的 sin に直に接することで *casi* 相当に変わる”とも考えられる。

2.1.1. sin + 不定詞

sin 前置詞句は状況補語として機能し、*apenas* はその外部からこの状況補語全体を修飾するよう見えるが、実質的には *apenas* と sin が共同で sin 句内部の不定詞形動詞を近似否定している。主節動詞が *apenas* + sin 不定詞に後置されても [Cf. (34) (35)] 先行しても、主動詞の極性は *apenas* にも sin にも全く影響されない。

(33) Se levantó con la cabeza atontada y la boca seca, la noche anterior había bebido demasiado vino, pero estaba tan rico y tan fresquito que lo había tomado *apenas sin* darse cuenta y ahora pagaba las consecuencias. 「ほとんど意識せずに飲んだ」 [IF]

(34) Y luego, *apenas sin* descansar, viajaré a México, Colombia y Venezuela para regresar a España en el año 2000 e iniciar la temporada en las ferias de Castellón y Valencia. 「ほとんど休む間もなく」 [PE: 14/06/99]

(35) El resto, *apenas sin* moverse, reposa en sus lechos, cubiertos con mantas azules. 「ほとんど身動きせずに」 [MN: 15/10/95]

(36) Siendo una chica a quien le gustaba mucho llamar la atención y que solía vestir con atrevimiento, a veces aparecía *apenas sin* arreglar, como si acabara de levantarse de la cama y no tuviera ganas de nada. 「ほとんど身だしなみを整えず現れていた」 [TD: 149]

(37) El balón iba y venía *apenas sin* salirse de la baldosa, y al Atlético el baile no le gustaba nada. [PA: 05/10/98]

2.1.2. sin + 名詞句

前項の不定詞句の場合と同様に、状況補語である sin 前置詞句の外部に立つ *apenas* が sin に内蔵の否定を近似化する結果になる。

(38) Stanley podía estar trabajando *apenas sin* descanso los siete días de la semana. 「ほとんど休憩なしに働く」 [MD: 10/09/01]

- (39) Las ilusiones deben cumplirse pronto, *apenas sin* disciplina, pero además no se cuenta con el suficiente auxilio interpersonal para recuperarse, canjear confianzas, agruparse solidariamente. [PA: 25/03/99]

前置詞句全体の前置により *apenas* が、動詞より先に来ることもある【cf. (40)】。また、まれに他成分が *apenas* と *sin* の間に割り込むことがある。*sin* 句が *apenas* の直後で目的語補語として機能するのが下文(41)の例である。

- (40) *Apenas*, a mi pesar, *sin* fuerzas, me levanto y llego a la puerta. 「ほとんど力無く起きあがる」 [AF]

- (41) Cuando el consistorio tomó esa decisión, Las Arenas ya llevaba 11 años cerrada y *apenas sin* uso, ya que el último festival taurino se celebró el 9 de junio de 1977. 「ほとんど使用されない状態で」 [PE: 31/12/98]

2.2. 間接構成素の *sin* 句

前置詞 *sin* に導かれる句が主動詞に直接支配される構成要素でなく、下位構造の一部を形成し、*apenas* が名詞句内部に位置し、(*sin* + 名詞) が形容詞句として働く。2.1.2. の場合と同様に、*apenas* は内部名詞に対する否定(不在・欠如 etc.)を近似化する。あるいは、*sin* は通常の意味を保ちながら、*apenas* が *casi* に等しい機能に転化しているとも見ることもできる。

- (42) Hay mujeres *apenas sin* ropa y muchos niños van incluso descalzos, detalló. 「ほとんど衣服を着けていない女達」 [PE: 03/04/99]

- (43) También se unificarán las anchuras de las aceras, se renovará el sistema de alumbrado y se plantarán árboles en una zona *apenas sin* vegetación. 「ほとんど植栽のない地域」 [PE: 03/03/99]

名詞句から遊離した形容詞句の内部に働くのが(43)の *sin* 句である。

- (44) Sucios, *apenas sin* ropa y descalzos, la vida de los niños en el piso era un infierno conocido por todo el vecindario. [MD: 27/04/02]

3. その他の非近似否定

3.1. 下限評価の *apenas*

数量表現と共起する下限評価的 *apenas* を含む文に *sin* + 名詞が出現することもある。

- (45) Sus personajes son *apenas* sombras *sin* ningún tipo de alma; y su héroe no pasa de ser un bravucón *sin* matices. 「いかなる種類の魂ももたないただの影」 [UN: 27/08/02]

数量詞を伴わないで名詞句を下限に評価する *apenas* の用法があり、その名詞句が *sin* + 名詞句を含んでいるのが(45)である：

- (46) El Everest se ha coronado 1.170 veces, aunque *apenas* el 10% ha sido *sin* oxígeno.

文(45)(46)の何れにおいても *sin* 句内の否定価は *apenas* に影響されない。

3.2. 従節核 *sin*

次例は *sin que* 節を含む文であるが、*apenas* は状況補語の内部の局所的な評価で、主文の肯定・否定は主動詞に影響せず、従って、主動詞 *apenas* のタイプとはみなされず、もちろん *sin* はその影響下でない：

- (47) El pago de este monto fue ordenado en *apenas* tres días, *sin que* se hubieran realizado los servicios contratados por el Ministerio de la Defensa, dijo la juez, y ... [UN: 24/04/99]

3.3. 接続詞 *apenas*

直後性を表す接続詞的用法「～するや否や」の *apenas* 節が *sin* 構造を含むケース【Cf.(48)(49)】は、特に否定・肯定との相乗問題が起こらないと思われるので、考察の対象から外した。

- (48) *Apenas* éste viajó a Salta *sin* consultarlo con el Presidente, la ministra le había dicho que el frepasista se preparaba para desairarlo.[NA: 25/06/01]
- (49) Jimmy falleció *apenas* fue ingresado en el centro hospitalario *sin que* los facultativos pudiesen hacer nada por salvar su vida. [MD: 21/07/02]

II. SIN - APENAS

第2章では *sin* が *apenas* に先行する語順の様々を検討する。ただし、対象にするのは *sin* に導かれる同一前置詞句内部に *apenas* が含まれる場合である。4.1. 節の不定詞形動詞を従える場合でも、4.2. 節の名詞核構文でも、*neg × neg* の相乗で肯定的解釈が生じることはなく、また、僅少量が反転されて、＜僅かでない→多い＞の意味に転化されることはない。*sin*(~)

apenas が融合して、単一の近似的な否定が存在するのみである。

4.1. 不定詞核 *sin*

apenas が不定詞形動詞の直前・直後に来るか、または他の要素を間に挟みその後に立つか、の3通りのケースが認められる。

4.1.1. *sin apenas* + 不定詞

- (50) Cuando se habla del tránsito y los atascos, sorprende que las soluciones únicamente se cifren en mejorar las infraestructuras, *sin apenas* tener en cuenta el factor humano pese a tratarse del genuino protagonista. 「人的要因をほとんど考慮に入れずに」 [VG:09/11/01]
- (51) *Sin apenas* sonreír durante su encuentro con la prensa, Marilyn Manson negó haberse plegado a un sonido más blando. 「ほとんど笑みを見せずに」 [PA: 22/09/98]
- (52) Fueron cuatro días *sin apenas* dormir, calado hasta los huesos, *sin* comer caliente, porque se empaparon las cerillas y perdió las pilas eléctricas, los encendedores y los guantes. 「ほとんど不眠の4日間だった」 [PA: 06/10/99]

4.1.2. *sin* 不定詞 + *apenas*

- (53) Nacido en 1910 en Valladolid, vivió dedicado a la poesía toda su vida *sin* abandonar *apenas* su tierra natal. 「ほとんど生地を離れることなく」 [VG:24/10/02]
- (54) Uno de ellos, *sin* saludar *apenas*, empezó a medir el piso con una cinta métrica de sastre, mientras el otro trataba de congraciarse con Maruja. 「ほとんど挨拶せずに」 [NS]
- (55) Nos fascinaba que *sin* haber ido *apenas* al colegio supieran tantas cosas. 「ほとんど学校へ通ったこともなく」 [ME]

不定詞形の動詞が否定語や否定対極表現を含んだ目的語を伴うことがある。これは副詞 *apenas* の共起と無関係に前置詞 *sin* の内部でも通常見られる現象である。

- (56) Precisamente así — habían dado ya las doce — *sin* encender *apenas* ninguna luz, hace unos cuantos años, nos tocaba una noche las variaciones un tema de Chopin. 「ほとんど明かり一つ点けることなく」 [AC: 26/03/93-30/04/93]

(57) Aviones *sin* piloto Predator, capaces de permanecer en el aire 24 horas ininterrumpidamente y de volar a 130km/h *sin* emitir *apenas ningún* sonido, se sumaron a la caza. 「ほとんど何の物音も立てずに」
[MD: 20/11/01]

(58) *Sin apenas* haber probado *bocado*, con la pipa en la boca y el teléfono en la oreja, Martín de Riquer sorteaba ayer a cámaras, fotógrafos y plumillas, mientras combinaba las entrevistas en su casa con las telefónicas. 「ほとんど一口も食べずに」 [MD: 01/11/00]

4.1.3. *sin* 不定詞 xx + *apenas*

前項4.1.2.の変種であるこの語順はわずかで、収集例では(59)の他に見当たらない。

(59) Y si pregunta a cualquiera cuál es el mejor coche del mundo, le dirán una marca *sin* haberlo conducido jamás, tal vez *sin* haber visto su motor *apenas*. [VG:14/12/01]

4.1.4. 迂言形式を含む不定詞

助動詞 *haber* を伴う完了不定詞形を除き、それほど多くの事例は見られなかったが、2動詞の共起で *apenas* の位置の多様性が拡大する。観察された該当データの中で、助動詞 *poder* が介入する例を取れば、*poder* と動詞不定詞の間に *apenas* が割り込むのが4例、動詞不定詞後に立つのが4例であるのに対して *sin apenas poder* は20数例確認された。

(60) Parece que nunca vaya a amanecer... -pensé en voz alta *sin poder apenas* resistir la embriagadora alegría que me desbordaba por dentro. [JB]

(61) Se entra, llorosa y *sin poder reprimir apenas* sus nervios. [HE: 8]

4.2. 名詞核 *sin*

4.2.1. *sin apenas* + 名詞

apenas に先行された名詞塊を内部に含む *sin* 句が、名詞句や動詞句など上位の統語環境に出現する。名詞核 *sin* が(62)(63)のように名詞句の補部内に立てば、中心語に付随する名詞の数量が極少、微量で否定されるに近いことを意味する。

(62) ¿Cómo un hombre *sin apenas* carisma pudo gobernar en España durante cuarenta años? 「カリスマ性のほとんどない人物」 [MN: 01/06/

66]

(63) Una imagen del paseo de Gràcia de Barcelona *sin apenas* tráfico durante un mes de agosto, cuando las vacaciones dejan la ciudad vacía. [PE: 29/04/99]

(64) Así, en la política reaparece el trueque de favores, la parentela o la cohorte de amiguets *sin apenas* cemento ideológico que los una. 「それらを結びつけるイデオロギー上の基盤がほとんどなく」 [PA: 24/04/99]

(65) Vuelve como se fue, *sin apenas* equipaje, sin dinero, sin perspectiva laboral. 「ほとんど荷物なしに」 [MD: 27/12/01]

(66) Bush habló con pasión y *sin apenas* errores de pronunciación, con belicismo e idealismo. 「ほとんど発音間違いなしに」 [VG:31/01/02]

この名詞核に関係節が後続すると、その節内の動詞が接続法となる：

(67) Cinco toros perdieron pelo, sobre todo de la zona auricular, *sin apenas* causa aparente que lo justificara. 「正当化する明白な理由はほとんどない」 [MN: 19/09/95]

4.2.2. *sin apenas* + 否定語

前項と同一種の構造だが、名詞核が否定語そのものであったり、その限定詞が否定語であることは珍しくない。

(68) ‘Tuve que aprender a hablar de nuevo y lo hice *sin apenas nadie* que me ayudara’, contó. 「助けてくれる人はほとんど誰もなく」 [PA: 22/08/02]

(69) Es sólido porque sobrevive *sin apenas nada*, sin dinero, sin premios, sin apenas apoyos, y lo peor, muchas veces casi sin público, sin lectores. [MN: 05/10/96]

上文には、*sin*, *apenas*, *nada* の否定的語彙が3つ連続するが、「何もなしに」という1つの否定意味にそれを近似化する「ほとんど」が付加されただけである。

(70) Aunque el objetivo de la cumbre era la integración de las infraestructuras de la región, tan sólo se habla de la crisis que amenaza a todos los países de la zona, *sin apenas ninguna* excepción. 「ほとんど一つの例外もなく」 [VG:27/07/02]

4.2.3. sin 名詞 + apenas

この語順は § 4.2.1. の配列タイプに較べて少ない頻度で観察される。

(71) Corre, suena la chapa cuando bate, cae *sin* fuerzas *apenas*. 「ほとんど力無く」 [PA: 29/01/01]

(72) Hacía un tiempo indefinible en su ciudad, Megapolandia, donde las estaciones se perpetuaban unas en otras *sin* alteración *apenas*, gracias al avance tecnológico. 「ほとんど変化なく」 [AA]

Ⅲ. sin 句の等位接続と apenas

5.0.

この章は否定性を内包する sin 句を並列する際に用いられる接続詞 y または ni と apenas の関連性の可能性を調べる。apenas 文側からの見た接続コネクタの現れ方については出口(1998-1999)で扱った。等位接続される2つの sin 句 (sin X + sin Y)、または内部に等位構造を含む1つの sin 句 sin (X + Y) を対象とする。後者の場合に apenas が関与するとすれば、等位的に結合された両要素に apenas が作用する可能性が認められる。発見された実例文は、すべて apenas が1度のみ使用されるケースであるが、冗長感を厭わなければ被結合成分のおのおのに対する apenas の繰り返しを妨げる理由はないだろう。

5.1. sin X + sin Y

5.1.1. sin V y sin apenas V

動詞核 sin 句が y で結合された並列で、後半の sin 句に apenas が含まれる。sin は内部の否定意味を公的周囲に輸出しないので、もとより apenas が接続詞の選択に影響を及ぼすことはないはずである。

(73) Lo más grave del caso es que los 36 inmigrantes llevaban cuatro días *sin* comer y *sin apenas* beber cuando fueron descubiertos en el interior de este vehículo por una pareja de la Guardia Civil del puesto principal de Mijas, en Málaga. 「ほとんど食べずに、またほとんど飲まずに」 [MD: 21/06/00]

(74) Sostuvo una cosa primero y luego la contraria, *sin* pestañar y *sin apenas* emplear vaselina. 「まばたきせずに、またほとんどワセリンを用いずに」 [UN: 15/01/02] “uni2115”

5.1.2. *sin* N y *sin* apenas N

前項と同じパターンとみなせるが、一方に *apenas* を含んだ2つの名詞核の *sin* 句を接続詞 *y* で並列することが出来る。

(75) Sin acceso marítimo, *sin* petróleo y *sin apenas* recursos naturales, la agricultura y el sector manufacturero son sus principales fuentes de ingresos. 「石油も天然資源もほとんどなく」 [PE: 28/10/99]

(76) Resulta difícil imaginar cómo han sobrevivido *sin* agua, *sin* electricidad y *sin apenas* comida. 「水、電気も食料ほとんどなく」 [PA: 13/04/02]

5.1.3. *sin* V ni apenas V / *sin* apenas V ni V

動詞核 *sin* 内部で不定詞形動詞が連結されるケースで、並列構造が全体として *sin* のスコープに入るので *ni* が出現する。NEG (A&B) における A, B いずれかの動詞が副詞 *apenas* で修飾される。

(77) Lidiado *sin* criterio, el toro se rebotó de un caballo a otro en sucesivos picotazos y se quedó *sin* picar *ni* sangrar *apenas*. 「槍で刺すことも、ほとんど血を出すことなしに」 [HY:13/10/01]

(78) Lola y Gabriel llevan una semana *sin apenas* dormir *ni* comer. 「ほとんど眠らず、食べずに」 [PA: 19/09/99]

5.1.4. *sin* apenas N ni N / *sin* apenas N y N / *sin* N ni apenas N / *sin* N y apenas N

連結された名詞を1つの *sin* が支配する名詞核 *sin* で、*ni* が用いられる場合と *y* が用いられる場合がある。いずれのタイプにおいても *apenas* が前段・後段どちらにも起こり得る。

(79) *Sin apenas* comida *ni* agua, los emigrantes deben pasar semanas e incluso meses en el mar antes de comenzar una nueva ruta por tierra. 「ほとんど食料も水もなく」 [MD: 20/06/00]

(80) Fue una victoria inesperada (86-85), lograda con un triple fabuloso, *sin apenas* espacio y equilibrio, del alero Sean Elliot en los últimos segundos. [PE: 31/05/99]

(81) Creó una nación en un desierto pedregoso, *sin* petróleo *ni* *apenas* agua, rodeada por vecinos hostiles y muy superiores militarmente. 「石油もほとんど水もない」 [PE: 08/02/99]

(82) La fiesta, un ritual que suele convocar a centares de amigos y

familiares, se celebró casi en secreto en un pequeño local decorado con globos y una inmensa foto del padre fallecido de la novia; *sin* comida *ni* *apenas* bebidas, porque las tiendas que no habían agotado sus reservas estaban cerradas; 「食物もほとんど飲み物もなく」 [PA: 09/07/02]

- (83) Vivían entre sus excrementos, hacinados, *sin* agua, en caniles aislados por tablones, *sin* luz y *apenas* renovación del aire. 「光りもほとんど換気もない」 [MD: 19/05/02]

下に引用する例(84)では、*casi*に先行される *sin* 句と *apenas* に先行される *sin* 句が対等に *y* で接続されていて興味深い。(85)では、*casi sin* と *sin apenas* が *y* を挟んで対句となっている。

- (84) Cioran, por ejemplo, vivía en un estado de extrema penuria, en un sexto piso *sin* ascensor, en un pequeño cuarto *casi sin* libros y *apenas sin* ropa. 「ほとんど本を持たず、またほとんど衣類もなく」 [AB: 12/01/03]

- (85) Joseph Thomson, el explorador escocés que atravesó Africa desde Mombasa al Victoria, cruzando *casi sin* escolta y *sin apenas* armas el peligroso territorio masai, escribió en su lecho de muerte, con su salud minada ya por la malaria: 「ほとんど護衛なしにまた武器を持たずに」 [MD: 20/07/00]

5.1.5. その他

sin 句レベルの並列であるが、名詞核 *sin* と動詞核 *sin* を *y* で結合する例 (*sin* N y *apenas sin* V) が見られた:

- (86) *Sin* esfuerzo y *apenas sin* haber tenido que pelear, el capitán guipuzcoano había conseguido controlar la situación. 「労せず、戦わねばならなかったこともほとんどなく」 [RM]

また、不定詞を従える間接疑問節が *apenas* 付きの名詞と接続されているのが(87)である。

- (87) Está en la calle, *sin apenas* dinero *ni* dónde ir. 「ほとんど金も行くところもなく」 [AC: 14/07/95-18/08/95]

5.2. *sin* X + Y

5.2.1. *apenas sin* N *ni* N

前置詞句内部での *ni* による等位接続を含む構造全体を *apenas* が支配し

ているのが次例(88)(89)である。

(88) Las elecciones municipales pasan *apenas sin* pena *ni* gloria para las empresas españolas. 「可もなく不可もなく」 [PA:12/07/99]

(89) Seis mujeres de leyenda, *apenas sin* rostro *ni* rastro directo, salvo el dejado por algunos textos escritos por hombres, ayudan a desvelar la imagen del mundo femenino. [MN:10/02/96]

5.2.2. *apenas sin V ni V*

文(90)では不定詞のレベルで並列された *sin* 句を前置された *apenas* が修飾する。

(90) Una muestra más de la tozudez suicida del seleccionador español, que vivió el partido metido en el banquillo, *apenas sin* gritar *ni* dar órdenes. 「ほとんど叫ぶことも命令することもなく」 [MN:28/07/96]

6. 結論

apenas と *sin* は共に否定と関わりを持つ語彙でありながら、その相対的語順が意味解釈に影響を及ぼさないように思われる統語環境が存在し、特に次の2点に注目する。

1つは不定詞核 *sin* を準否定的に修飾する *apenas* の位置の自由さである。例えば、*sin darse cuenta* 「気付くことなく」の表現に対して、次の4通りの位置に副詞 *apenas* を確認することができた：

(91) Se levantó con la cabeza atontada y la boca seca, la noche anterior había bebido demasiado vino, pero estaba tan rico y tan fresquito que lo había tomado apenas *sin* darse cuenta y ahora pagaba las consecuencias. [IF]

(92) *Sin* apenas darse cuenta, entran así en una red de tráfico de drogas y el padre es capturado por la Policía. [AC: 16/09/94-28/10/94]

(93) Quedóse, pues, Juan, en la más absoluta soledad, *sin* darse apenas cuenta de dónde se hallaba. [FR]

(94) Al oír la explosión, quedó aturdida, no sabía qué hacer pero, *sin* darse cuenta apenas, cogió al bebé, de seis semanas, y de alguna forma logró salir a la calle, gravemente herida. [PA: 10/09/99]

すなわち、不定詞形動詞を V、その目的語を D と表すると、(92)の図式で示される語順が可能である【cf.出口(1999:8-9)】：

- (95) a. apenas sin V D
 b. sin apenas V D
 c. sin V apenas D
 d. sin V D apenas

もう1つの事実、動詞核の上例(95) a,bに限らず、名詞核 sin にも該当する sin と apenas の接触である。とりわけ、sin と apenas が隣り合うとき、すなわち “apenas sin”、“sin apenas” の連鎖において apenas は sin のもつ「否定」機能を無効にして自己の近似否定を確立する。一方、これらの語連鎖は一体となって一つの前置詞として働く。その結果、統語的には sin に等しく、意味的には apenas (近似否定解釈) に相当する1つの新単位を形成するように見える。別の見方をすれば apenas sin = sin apenas は仮想の新たな“前置詞 apenas”「ほとんど～(すること)なしに」に期待されるような振る舞いをみせる。

<例文出典>

- EL: Isabel Allende, “Eva Luna”. Harper Collins, N.Y., 1996.
 HE: Antonio Buero Vallejo, “Historia de una escalera”. — Hiroto Ueda (ed.)
 Análisis lingüístico de obras teatrales españolas.III. Textos e índice de palabras. Univ. Nacional de Estudios Extranjeros de Tokio, 1987.
 LT: Gabriel García Márquez, “La aventura de Miguel Littín clandestino en Chile”. Editorial Oveja Negra Ltda., Bogotá.
 TD: Soledad Puértolas. “Todos mienten”. Editorial Anagrama, Barcelona, 1988.

<電子化データ>

- AA: Amparo Arróspide, “Lorena X301”. — The Barcelona Review: Revista Internacional de Narrativa Breve Contemporánea. No.21, 2001.
 AB: ABC, Prensa Española, S.A. Madrid.
 AC: ABC Cultural.
 AF: Alberto Fuguet, “Hijos”. — The Barcelona Review: Revista Internacional de Narrativa Breve Contemporánea. No.15, 1999.
 DS: José Asunción Silva, “De sobremesa”, Biblioteca Virtual Colombiana-Biblioteca Familiar Colombiana.
 FR: Yolanda Reyes, “Frida”, Antología de los mejores relatos infantiles-

Biblioteca Familiar Colombiana.

HY : Hoy Digital, Ediciones Digitales HOY, Badajoz.

IF : “Lucrecia” — Relatos y cuentos infantiles 2001.

JB : Xabier Galarreta, “José Balenzuela”.

LC : Lynn Coady (Trad. Laura Manero), “Dios Santo, Murdeena”. — The Barcelona Review: Revista Internacional de Narrativa Breve Contemporánea. No.19, 2000.

MA : Magazine, suplemento de El Mundo.

MD : El Mundo, elmundo.es. Munditeractivos, S.A., Madrid.

ME : Sara Fernández Martín, “Miedo”, — Concurso Literario para Estudiantes Universitarios (El País Digital), 1998.

MN : El Mundo en CD-ROM. Primer Semestre & Segundo Semestre 1995 y Primer Semestre & Segundo Semestre 1996, Mudired.

NA : La Nación Line, Bs.As.

ND : La Nación Digital: Revista Dominical. San José, Costa Rica.

NS : Gabriel García Márquez, “Noticia de un Secuestro”, América Nativa. 1996.

PA : El País Digital. Diario El País, S.L., Madrid.

RM : La Revista de El Mundo, núm. 193, 1999.

RR : Rodrigo Rapela, “Un pequeño tajito al afeitarse”. — Golem. 1994.

TV : Alberto Javier Ribes Leiva, “Tal vez en Oslo” — Concurso Literario para Estudiantes Universitarios (El País Digital), 1998.

UM : El Universal Online, México. D.F.

UN : El Universal Digital, Caracas.

VG : La Vanguardia Digital, Barcelona.

<参考文献>

Bosque, Ignacio(1980) : La preposición sin. — *Lingüística Hispánica* 3, pp.71-85.

De Bruyne, Jacques(1999) : Las preposiciones. — *Gramática descriptiva de la lengua española. I*. Espasa-Calpe, S.A., Madrid.

Real Academia Española(1973) : Esbozo de una nueva gramática de la lengua española. Espasa-Calpe, S.A., Madrid.

- 出口厚実(1998)「apenas:否定性に関わるいくつかの特徴(1)」－*Estudios Hispánicos* 23, pp.31-40
- － (1999)「apenas:否定性に関わるいくつかの特徴(2)」－*Estudios Hispánicos* 24, pp.1-12
 - － (2000)「apenas と被数量化要素」－*Estudios Hispánicos* 25, pp.1-16
 - － (2001a)「apenas と数量詞」－大阪外国語大学論集 25, pp.27-47
 - － (2001b)「apenas による直後性の表現について」－*Estudios Hispánicos* 26, pp.35-56
 - － (2003)「apenas si について」－*Estudios Hispánicos* 28, pp.1-16